

シラヒゲウニの資源管理についての技術交流会

近藤 忍

1. 目的

近年、宜野座村漁協ではシラヒゲウニの資源減少が著しい。今後、等漁協においてウニの資源管理型漁業を推進すべく、現在、今帰仁村漁協で行われている資源管理手法等学習する。

2. 交流先

今帰仁村漁協

3. 日程

平成11年3月12日

4. 参加者

宜野座村漁協青年部

5. 交流内容

今帰仁漁協会議室において、漁協職員新城氏より古宇利島周辺海域におけるウニの漁獲動向、ウニ部会の活動内容について説明していただいた。

乱獲による資源の減少及び魚価の暴落に対する危機感から、ウニの出荷調整、資源保護を目的とした部会の設立。AB2班による隔日出荷と1日当たりの出荷量の設定等、ウニ部会及び漁協の精神的な活動により、平成元年に約6,000円/kgであった魚価は平成10年には、約16,000円/kgとなった。また、隔日出荷と出荷調整により操業日数は以前の半分以下となった。ウニ資源管理に対する取り組みとその結果について学習した。

6. 所感

ウニ漁業者と漁協が一体となって、ウニ資源管理に取り組んでいる今帰仁漁協の取り組みは、大きな成果を上げている。当学習会における今帰仁漁協の取り組みを参考にしてもらい、宜野座漁協のウニ漁業においても漁獲物の一次加工の促進、禁漁期の設定等行い、ウニ資源をより有効に漁業収益に結びつけられるよう出来ないものか検討してゆきたい。